

石巻 特別座談会



Together ともに乗り越える。ともに未来へ伝える。

「東日本大震災」は、多くの校友に多大な影響を及ぼしました。この大規模な自然災害から、何を学ぶのか。危機に対して校友会は、どのように立ち向かうのか。100年後、1000年後の校友に災害状況だけではなく、今回の災害から得た教訓、未来への展望などを伝えるために、地元で被災された甘竹会長はじめ、石巻専修大学の坂田学長、伊東同窓会長に、じっくり語り合っていた。司会 ■『アドニス』編集部



甘竹秀雄

専修大学校友会会長
株式会社アマタケ 相談役
1958年、商経学部商業学
科卒業



坂田 隆

石巻専修大学学長
石巻専修大学助教授などを
経て現職
専門は比較栄養生理学



伊東孝浩

専修大学校友会副会長
石巻専修大学同窓会長
1993年、石巻専修大学
経営学部経営学科卒業
1995年、同大学院 経営学研究科
修士課程修了

ここまでは津波も来ないと、 安心していただけの一変。

編集部 ■ 「東日本大震災」が起きたときに、どういう対応をしたのか、どんな教訓を得たのかなど、今号の『アドニス』は100年後、あるいは1000年以上のちにも伝えるべき内容になると思います。まず、甘竹校友会長から、お話をお聞かせください。

甘竹校友会長 ● 岩手県大船渡市の4階建て本社ビルの4階で、幹部社員に会

社の方針を説明していました。そろそろ締めに入ろうかなというときに、震度7の揺れが来ました。3分か4分くらいでしたが、もう立ってられなくて、2人の社員に押さえてもらいました。本社ビルの土地は埋め立て地ですので、よけい揺れたと思います。

本社前の広場に降りて行ったら、工場にいた400~500名の社員が整列してました。「1班、異常なし!」「2班、異常なし!」……。日頃から会社で避難訓練していることは知ってましたが、

実際に見たのは初めてです。うちの会社もたいしたものだなと思いました。

そしたら、災害本部長も兼務している村上常務が、「いまから避難するぞ!」と言い出しました。「ここまで津波は来ないから、避難はいいんじゃないか」「400~500人も移動させるのは大変だ」と喉まで出かかったんですが、彼の言い方がもの凄いい口調だったものですから、話すのは止めました。

編集部 ■ 鬼気迫るみたいな……。

甘竹校友会長 ● あとで聞くと、村上本